特集3 商・材・研・究

IP-PBX/ビジネスホン

IP電話対応でもうひと花 端末価格の低廉化も追い風

キャリア/ISPのIP電話サービス本格化を受けて、PBX/ビジネスホン業界のVoIP対応戦略が一段と進んでいる。SIPへの対応、端末の低廉化・ワイヤレス化等々の製品強化とともに、ユーザー提案における競争も激化してきた。

PBX/ビジネスホン業界で、企業ネットワークに対するVoIP導入のアプローチが始まってかれこれ4年になる。期待の商材は、実績を重ねつつも、爆発力に欠けていた感は否めない。

しかし昨年後半、強い追い風が突然吹き始めた。通信事業者各社がスタートさせたIP電話サービスがそれだ。今のところはコンシューマー向けが主体だが、その話題性は、企業ユーザーの目も釘付けにした。さらに昨年12月に発表された東京ガスのIP電話導入が強烈なインパクトとなった。

「2003年度は、IP電話をキーワードにしたVoIP商談が活発化するのは間違いない」というのが業界内の共通した見方だ。

ISDN環境をIP電話に置き換え

PBX/ビジネスホンのIP化は、拠点間を結ぶWANを接続するトランク側からLAN(内線)側のラインカードへと進んできた。今のキャリア/ISP各社のIP電話サービスへの対応では、公衆網を接続するトランク側において、SIPによるインターフェースが提供されることになる。

IP電話サービスをいち早く取り込んだのは田村電機製作所。フュージョン・コミュニケーションズが「FUSION GOL フレッツADSLプラン」において4月1日から「FUSION IP-Phone」の提供を開始したのに合わせて、自社のビジネスホン「MT100sx/200sx」専用のIP電話アダプター「GW200」を発売した。5月にはビジネスホンもバージョンアップ版の「MT100/200bm」をリリース。IP電話でかけられる電話番号を主装置側で自動判別してGW200にルーティングする機能を「IP電話対応ACR」の名称でアピールしている。

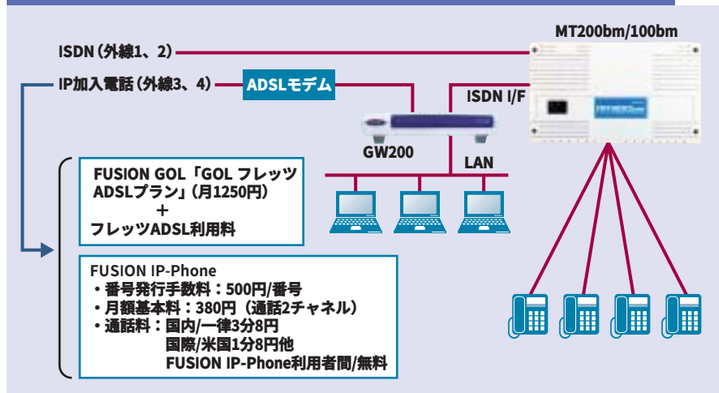
GW200は、主装置との接続にISDNインターフェースを採用した点がポイント。田村電機製作所・ビジネスプランニング&セールスカンパニー事業推進部の朝日徹マネジャーは、「ビジネスホンとのセットで販売しやすいように、積極的に拡販してきたISDNとの接続性を重視した」という。

FUSION IP-Phoneは、1契約(050番号を1つ付与)・月額380円で通話2チャネルを提供する。ADSLインフラにかかる料金はFUSION GOLの月1250円+フレッツADSLの月2700円(東日本)/2900円(西日本)。INSネット64(事務用)の月額3690円(屋内配線使用料込み)よりも若干高くなるが、通話料は相手がFUSION IP-Phone利用者であれば無料、一般電話との通話も全国一律3分8円。ISDNと比べても十分に競争力はある。さらに同社では、「携帯電話ACR機能」と銘打ち、携帯電話への発信に関しても“0038”を自動付加することで、フュージョンが提供を開始した1分20円の安価なサービスを組み合わせたコスト削減効果を訴えていく。

販売店側からも絶大な反響が返ってきている。田村ビジネスシステムの小野明事業推進部長代理によれば、「厳しい市況を余儀なくされてきたビジネスホンで、もうひと花咲かせられると意気をあげる大手代理店もある」という。同社では月1000セットを販売目標に掲げているが、「今の手応えからすると、もっと上の数字を狙える」と見ている。

ただ、小野部長代理は課題もあるという。IP電話がブロードバンドというベストエフォートサービスの上で提供されるものであるということに対して販売店側がなかなか正しい理解をしてくれないことだ。「当社のシステムを導入し、フュージョンのサービスを契約すれば必ず2チャネルの通話が使えるということではなく、フレッツADSLのスループットが2チャネルを確保できるかどうかを測定しなければならない。実際の作業としては、NTT東西がWeb上で提供している提供エリアと実効速度の測定サービスで導入可能かどうかを判断したうえで、現場での実測を行う必要がある」。作業そのものが難しいわけではない。従来の電話ではキャリア側の保証によって気にしなくてよかったために、即座には理解しにくいということ。「セールス面の知識を修得してもらうよりもはるかに難題」と、小野部長代理はいう。

図1 田村電機製作所「GW200」を使ったIP電話サービス利用



トランク内蔵で多機能を生かす

他メーカーも追随の意向を見せている。というよりも、キャリア/ISP側が競合に先んじて企業ユーザーを囲い込もうと、メーカー側に積極的なアプローチをかけているようだ。

岩崎通信機は、すでにトランク側・内線側ともにSIP対応を果たした中大容量機種「Acteto II」に加え、小容量クラスの「TELEMORE Light」もIP電話に対応させる。

その方法としては、「前者は内蔵トランク、後者はアダプターと内蔵トランクの両方を考えている」(通信営業本部マーケティング部の吉本誠部長)という。対応キャリアは、東京ガスのネットワーク構築でパートナーを組んだフュージョンが一番手となりそうだが、他のキャリアとも接続検証を進めている。

NECインフロンティアは、この上期に「Aspire」でSIPトランクを提供していく予定。アダプター型も視野には入れているが、「ビジネスホンの機能を生かすにはトランク内蔵型にしたほ

岩崎通信機「Acteto II」。IP電話対応のトランク内蔵を予定している

東京ガスのIP電話導入

東京ガスは、約100カ所の事業所を結ぶ社内電話網のフルIP化を今春から進めている。ネットワークシステムの構築はNTTデータが担当。フュージョン・コミュニケーションズの「FUSION IP-Centrexサービス」を採用しPBXレスのネットワークを構築。SIP対応のゲートウェイおよび構内PHSシステムは岩崎通信機、SIP電話機はユニデンが供給する